

日本一王座決定戦

パレ那須オフロードパークに、ショップ自慢のマシンたちが集合した。それを駆るライダーもいすれ劣らぬつわもの揃い。スペシャルマシン日本一の栄光と総額30万円の賞金を目指してBACK OFF主催 国産トレール・エンデューロ・スペシャルマシン日本一王座決定戦の始まりだ!!

▶スタート直後のコーナー。トップで通過したのは①ショップウイリー松浦のRMX250 S。ライダーは、もちろんウイリー松浦だ



■主催/BACK OFF編集部 ■監修/森岡進、小田桐昭蔵
 ■協力/WFC(パレ那須オフロードパーク)
 ■写真/前川健彦、村田和聡
 ■文/村瀬理



▶小田桐レイアウトの難コース。つわもの揃いのライダーたちが、その表情に苦しさが見られている



▶難所のひと、優勝マシン③ガレージ・ハイブリットXLRの戸田も、押しでクリアの1コマだ



▶エンジンをオーバーヒートに追い込みウツスセクション。エンデューロならではの状況にマシンの準備が問われる



▶タイムアタックのタイム順に並んでのル・マン式スタート。各ライダーの意気込みが伝わってくる。この直後が上の写真だ

UMAMIZU・CRM。⑩KDXが、ライダーの疲労から徐々にペースを落としたこともあり、スタート1時間後にはトップに立つ。レースは、1時間30分を経過、トップの⑥CRMの背後に不気味に迫るマシンが出現した。そのマシンは、なんと4ストの③ガレージ・ハイブリットXLR。目まぐるしく変わるトップ集団を尻目に、着実に走りトップに肉薄してきたのだ。そして、⑦のピットインの間に、ついにトップに浮上。その後も快調に周回を重ね、独走体制に入る。さらに、2位に落ちた⑦CRMには、⑩KDX250SR、渋谷モーター商会の⑤CRM2台が迫り、激しい2位争いが展開される。ここから抜け出したのは⑥CRM。15周目に2位に浮上し、後続を徐々に引き離しにかかると、2時間30分過ぎには、トラブルで出遅れていた①RMXが猛烈な追い上げを見せ、ギャラリーの注目を集めた。一時は、3位と1周差まで追いつけるが、20周目の下りで転倒。「路面が乾いてきたので、ペースをあげたら転倒し、右ヒザを痛めてしまった。やっぱり無理するのだめたね」と松浦氏。いよいよレースも終盤。③XLRがパワフルな走りでガッチリと総合トップをキープ。2位争いは、⑥CRMに⑩KDXが迫り、ふたたび激しさを増してきた。4時間経過してトップでゴールに飛びこんできたのは③XLR。ピットインは2回だけ、コンスタントな走り、4ストマシンが総合優勝を飾った。2位は、⑩KDXの追い上げをかわし、⑥CRMが入る。



▲レース終了後、ライダー、メカニック、そして応援に駆けつけてくれた人達と。みんなEDをこよなく愛する仲間たちだ

ガレージ・ハイブリット XLR250R 総合V

2スト勢を押しさえ ③XLRトップを独走
 毎年恒例の「エンデューロマシン日本一王座決定戦」。今回のコースは、昨年同様逆回りの設定となった。難所は、コース中盤に作られたマデインウツスセクション。ここをいかに短時間でクリアするかが、勝負の別れ目となった。
 レースの前に、スタート順を決めるタイムトライアルが行われた。ここでトップのタイムをマークしたのは、モトスペースの⑩KDX250SR。続いてライディングスポーツプロジェクトの⑨DT200WR、ウイリー松浦の①RMX250Sと上位7台までが、2スト勢。やはり、2スト強し! 今年も2スト勢でトップ争いが演じられるのだろうか? 11時40分、レースはル・マン方式でスタート。1周目、トップで帰ってきたのは⑩KDX。だが、①RMX、⑨DTWRもすぐ後に続き、タイムトライアル上位のマシンが、このままトップ争いを演じるかと思われた。ところが、①RMXは2周目にハンドルが緩んでピットイン。ライダーチェンジをしてトップを追うも、4周目にスローダウンし、再びピットへ。オーバーヒートで、サーモスタットのバッキンから水が噴き出し、ラジエターホースも裂けている。これらの部品の交換に手間とり、トップから3周遅れとなってしまった。また、⑨DTWRもラジエターのホースが抜け、4周目にピットイン。その後もエンジンはオーバーヒートがみで、トップ争いからは脱落してしまった。
 代わりにトップを追うのは、⑦K

日本一王座決定戦

国産トレール・エンデューロ SPL

ガレージ・ハイブリット XLR250R



ライダー
戸田 亘
昨年までは、全日本MX1
Bで全戦を走り、そして今
年はED1本、ハレ那須へ
アースランブル2連勝中



メカニック
金子幹典
ガレージ・ハイブリット代
表 EDレースも主催。み
ずからもCR M50で参戦し
てきたつわものだ



総合優勝
4ストローク
1位

今回の「エンデューロマン日
本一王座決定戦」で総合優勝を飾
ったのは、4ストクラスのこのX



■DATA
1 ノーマル (セッティング変更)
2 アファム製(F)12T、(R)46T
3 オリジナルマフラー(7月より販売予定)
4 (F)ダンロップ・D752、(R)IRC・M5B

**「ピットインは、わずかに2回、
疲れ知らずの走り」で総合優勝を飾る**
シヨートのストローク
高回転型XLR
LR250Rだった。マシンの改
造はほとんどエンジン関係。サス
ペンションはノーマルのまま。セ
ッティング変更のみでエンジンと
のバランスを取っている。
と、そのエンジンだが、もっ
と特徴的なのがシヨートのストロ
ーク化だ。ピストンは、アリエス
のφ76mmを使用し、クランクシャ
フトはXR250RF用。これに
より、ボア×ストロークは、76×
56・5mmでノーマルより3mmのシ
ョートストローク化に成功してい
る。ボアも3mm広がり、排気量は
256ccだ。この改造は、ライダー
の戸田選手の要望だという。彼
は、本日は2ストロークのほうが
好きで、エンジンも高回転まで回
るのが好き。そのための改造だ
ったのだ。また、オリジナルのマ
フラーは、ノーマルのパワーバン
ドを広げ、かつ高回転で回るもの
に仕上げられている。このマフラ



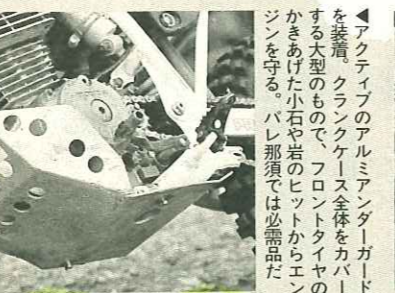
「ライトカウルはXR用。ライト部の
上半分にある透明のテーパーは、エアイ
ンテークの役目を持ち、オイルクーラ
ーに風がかかるような角度にセット。
冷却効率アップのための細かい配慮だ



「迫力満点のフォルムを持つマフラー
は、シヨートのオリジナル。これはハ
リヤー、ブランドとして7月から販売
が予定されている商品のプロトタイプ
だ。エキパイはXR用を採用



「CR250用のクラッチレバーには
AG200のクラッチロックレバーが
取りつけられている。これさえあれば
ニュートラルに入れないでも、マシン
から離れることができるので、便利



「アクティブのアルミアンダーガード
を装着。クランクケース全体をカバ
ーする大型のもので、フロントタイヤの
かきあげた小石や岩のヒットからエン
ジンを守る。ハレ那須では必需品だ

※DATAは、①サスペンション、②スプロケットの歯数、③エキゾーストシステム、④タイヤについて
(F)FRONT、(R)REAR、(セ)シヤンバー、(サ)サイレンサー、(エ)エキパイ

問ガレージ・ハイブリット ☎0282(62)4799 栃木県下都賀郡

シヨップの努力と技術の結晶だ!

エントリーマシン 一挙紹介

No.1 ステップワン XL200R

ライダー 坂田 勇

Fサスに'88XR250R、Rサ
スは'85XR250R、スイン
グアームはMTX200R、キ
ャブレターはXR200とホ
ンダ車のパーツを移植した
異色のマシン。見事タイ
ムトライアルは4スト、ト
ップのタイムをたたきだした。
☎0564(54)6504



4ストローク

2スト勢が多数を占める中、毎回、個性豊かなマ
シンが顔を揃えるのがこの4ストクラスだ。そし
て、2スト優位と言われる中で、総合でも着実に
上位の順位をものにしている。今回は、総合優勝
をこのクラスが獲得した!

No.3 ガレージ・ハイブリット XLR250R

ライダー 戸田 亘



良く回るエンジンが好きな
戸田氏の好みにあわせショ
ートストローク化したエン
ジンを積むXLR。足回りは
ノーマルながら、ライダ
ーはハレ那須常勝の戸田氏。
期待を裏切ることなく総合
トップに輝いた。
☎0282(62)4799

No.2 LYNX XLR-BAJA

ライダー 岸 和範
佐藤幸紀



オーソドックスな改造を施
したBAJA。排気量は278
cc。それにもないカム、
ヘッド、キャブレターなど
を変更している。足回りに
は定番のXRを移植。オー
ソドックスな改造だけにバ
ランスの良さは抜群だ。
☎0425(75)9084

No.5 アムステーション XLR250

ライダー 池田忠夫

'86XLRとはまたなつかし
い! だが、それだけでは
ない。エンジンはノーマル
ながら、エキパイ、前後サ
スは'85XR。リヤホイール
を18インチ化。フレームは
なんとXLX。密かに4スト
入賞を目指した。
☎03(3848)0092



No.4 RSタキザワ DR250S

ライダー 阿部千里
滝沢好雄

441ccというとんでもない
排気量に改造してきたDR。
そのビッグトルクはアップ
ダウンの激しいハレ那須で
は大きな武器になるだろう。
足回りもDR350のものを
組み込んで果敢にチャレン
ジしたのだが...
☎0484(66)3580



No.7 MOTO SPACE XLR-BAJA

ライダー 和田 敏
川村直樹



エンジンにはホワイトプロ
スの280ccキットを組み込
む。ミッションは3-6速
にXRのものを採用し、ク
ロスレジオ化。足回りもサ
スペンションからホイール、
スイングアームにいたるま
で手を加えている。
☎0593(88)2886

No.6 アムステーション セロー-225

ライダー 大坊雅春



これまた異色のマシン。F
フォーク、ステップ、ペダ
ル類をT225に変更し、アル
ミサイレンサーを装着し
て、挑戦する。ライダーは
昨年XLRで出場した大坊
氏。チーム一同ライダーも
密かに雨を期待したが...
☎03(3848)0092